



東北のかなめ

vol.67 (2025.1)

東北6県において、地域と防衛との共生を促進するため、
地域と防衛との架け橋になっている東北防衛局の活動をメインに、
関連する情報について、年4回、発信します。



令和6年度東北防衛施設地方審議会(10月21日)

【CONTENTS】

特集 第45回防衛セミナー in 東北町 東北防衛局の活動

令和6年版防衛白書の説明
航空祭、駐屯地記念行事で政策広報
日米交流かかし作り交流プロジェクト in つがる 2024
令和6年度日米共同統合演習(実動演習)
「キーンソード25」に係る地域との連携
防衛大臣感謝状の贈呈
令和6年度東北防衛施設地方審議会
三沢市(仮称)し尿処理施設の建設工事安全祈願祭
令和6年度在日米軍従業員永年勤続者表彰
防衛省の建設工事に関する説明会
安全運転講習会
安全衛生教育

地域と防衛との共生：関係する皆さまからのご寄稿

青森県三沢市
～三沢市のお祭りを紹介
三沢米空軍
～三沢基地航空祭2024
陸上自衛隊東北方面隊
～方面隊災害対処訓練「みちのくALERT2024」
防衛省
～三沢飛行場における戦闘機に係る態勢の更新
株式会社中屋敷建設
～三沢(4)格納庫改修建築その他工事

第45回防衛セミナー in 東北町

令和6年8月29日、青森県東北町の東北町民文化センターにおいて、防衛政策や自衛隊の活動等について、より多くの方々の理解と協力を得るため、「第45回防衛セミナー」を開催しました。

防衛セミナーの第1部では、安全保障環境やわが国の防衛の必要性について認識を深めてもらう観点から、「北朝鮮の核・ミサイル開発 ―「5ヵ年計画」を中心に―」のテーマで、防衛省防衛研究所の浅見明咲氏が、北朝鮮が核・ミサイル開発を継続している背景などについて、解説しました。

第2部では、地域と防衛との共生の重要性や方策について認識を深めてもらう観点から、「東北町分屯基地と地域との関わり」について、開催地である東北町に所在する航空自衛隊東北町分屯基地司令の荒木亮太1等空佐が、地域社会との共生に関する取組みなどを講演しました。



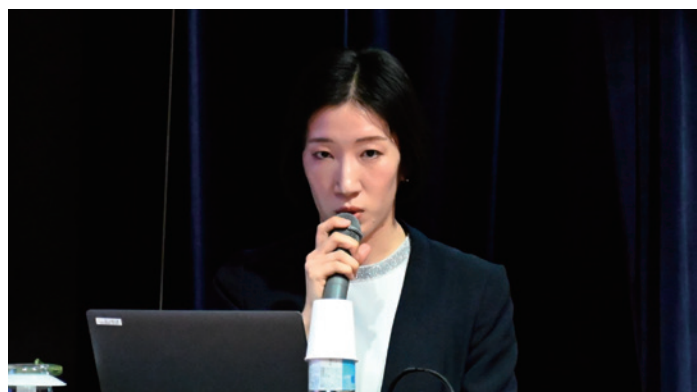
主催者である池松英浩東北防衛局長の挨拶



宮下宗一郎青森県知事代理として来賓挨拶をする船盛博実危機管理統括監



開催地である東北町の長久保耕治町長の挨拶



防衛省防衛研究所の浅見明咲研究員



航空自衛隊第4補給処東北支処長兼東北町分屯基地司令の荒木亮太1等空佐

防衛セミナーには、約100名の方々が来場し、「北朝鮮の実情が具体的に理解できた。ミサイルの発射実験等について、より深掘りされた講話を聞いて勉強になった。」、「東北町分屯基地の取組みについて、よく分かった。地域に協力いただき、ありがとうございます。」などの感想が寄せられました。

東北防衛局は、今後も、東北各地で「防衛セミナー」を開催していきます。



令和6年版防衛白書の説明

東北防衛局は、令和6年版防衛白書を、宮下宗一郎青森県知事、達増拓也岩手県知事、伊藤哲也宮城県副知事、神部秀行秋田県副知事、中川崇山形県防災くらし安心部長及び鈴木竜次福島県危機管理部長に対して配付し、防衛力の必要性、自衛隊発足後70年間の防衛力の進化、国民や住民・地域社会の皆さまの理解と協力の重要性・必要性などを中心に説明を行いました。このほか、自衛隊地方協力本部と協力して、東北地方の市町村等にも同様の説明等を行い、11月末までに合計262箇所を実施しました。

また、日本外交協会宮城県支部及び三沢東ロータリークラブから依頼を受け、講師を派遣し、「令和6年版防衛白書について」のテーマで講演を行いました。



宮下青森県知事への説明
(10月9日)



達増岩手県知事への説明
(11月19日)



三沢東ロータリークラブの講演
(11月14日)

航空祭、駐屯地記念行事で政策広報

東北防衛局は、防衛省の政策や自衛隊の活動について、地域の方々のご理解をいただくため、駐屯地の記念行事や航空祭で広報ブースを開設しています。

松島基地航空祭(8月25日)及び大和駐屯地創立記念行事(9月29日)では、各種パンフレットを配布したほか、ブース内に防衛白書のパネルを展示すると共に、パネルの中から答えを見つけるクイズ形式の問題を用意し、全問正解者には、戦車や戦闘機などのオリジナル缶バッジを進呈しました。



松島基地航空祭



大和駐屯地創立記念行事



日米交流かかし作り交流プロジェクト in つがる 2024

東北防衛局は、在日米軍と地域の相互理解を深め、在日米軍への地域の理解と協力を得るため、在日米軍の関係者と地域住民との「日米交流」の促進に取り組んでいます。

7月8日、青森県つがる市において、市立車力小学校の5年生の児童と米陸軍車力通信所の米軍人等による日米交流事業「かかし作り交流プロジェクト in つがる 2024」を開催しました。

日米の参加者は、混合5チームに分かれ、児童が事前に準備したかかしのイラストをもとに、かかしを制作。木の棒にワラや縄を巻き付け、浴衣やお面、メガネなどで装飾し、オリジナルのかかしを完成させました。



木の棒にワラを巻き付け、
かかし本体を作成



浴衣や小物でかかしを装飾



金賞に輝いたかかしと記念撮影

5体の「かかし」は、つがる市内2か所で展示と人気投票が行われ、9月20日、表彰式を開催しました。金賞に輝いたチームの児童は「米軍の人とコミュニケーションをとりながら、チームのみんなと上手にかかしを作ることができた。」と、米軍人も「子どもたちとの交流が楽しくていい思い出になった。」と話していました。

令和6年度日米共同統合演習(実動演習)「キーンソード25」に係る地域との連携

令和6年10月23日から11月1日までの間、令和6年度日米共同統合演習(実動演習)が実施されました。

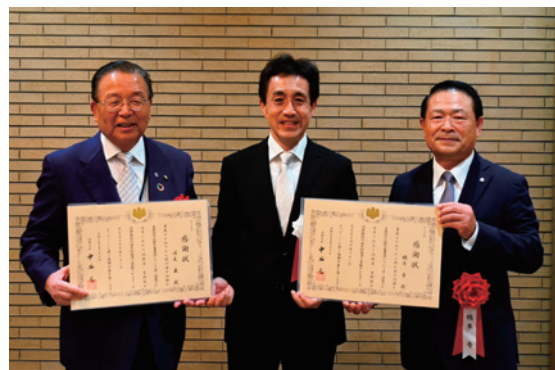
青森県内では、各自衛隊と米軍により、基地等警備訓練、衛生訓練、滑走路被害復旧訓練、統合防空ミサイル防衛訓練、統合対艦攻撃訓練が実施されました。

訓練の実施にあたり、東北防衛局は、訓練期間や参加部隊、使用する装備品、基地外への影響の有無といった訓練内容を地元自治体に説明しました。地元自治体においては、地域に不安を与えないよう、周辺住民に訓練内容をお知らせするなど、円滑な訓練の実施についてご協力をいただきました。

防衛大臣感謝状の贈呈

10月26日、令和6年度防衛大臣感謝状贈呈式が、ホテルグランドヒル市ヶ谷（東京都新宿区）において開催され、渥美巖宮城県東松島市長と橋本晋青森県六ヶ所村副村長に中谷防衛大臣から感謝状が贈呈されました。

渥美東松島市長と橋本六ヶ所村副村長は、長きに渡り、それぞれ松島飛行場または三沢対地射爆撃場の安定的かつ円滑な運用のために、ご尽力されました。



（左から）渥美東松島市長、池松東北防衛局長、橋本六ヶ所村副村長

令和6年度東北防衛施設地方審議会

10月21日、海上自衛隊大湊地方総監部において、令和6年度東北防衛施設地方審議会が開催されました。東北防衛施設地方審議会は、東北防衛局長の諮問に応じて、防衛施設に係る不動産の権利の対価の額や漁船の操業制限等による損失の補償額などに関する事項等を調査審議し、必要と認める事項を建議する重要な責務を担っており、一力敦彦会長（当時）（東北放送代表取締役社長）をはじめ、様々な分野において、専門的な知識や経験を有する9名を任命しており、当日は8名の委員が出席しました。



一力会長の挨拶



池松局長による説明



佐藤企画部長による説明

今年度は、防衛政策の現状やその課題と取り組みなどについて理解を深めていただくことを目的として、令和6年版防衛白書説明のほか、当局が取り組んでいる具体的事例として「防衛施設周辺における風力発電施設建設に伴う防衛省の対応」について説明を行い、各委員からは、多くの意見や質問が出され、盛会のうちに終了しました。



大湊地方総監部の協力のもと、護衛艦「おおよど」の見学のほか部隊概要説明が行われた。

三沢市(仮称)し尿処理施設の建設工事安全祈願祭

9月18日、青森県三沢市において、(仮称)し尿処理施設の建設工事着手に先立ち、安全祈願祭が行われました。本施設は、三沢飛行場から排出されるし尿を一般のし尿と併せて処理するためのものであり、三沢市が、同飛行場の運用に伴う障害を緩和する民生安定施設として、「防衛施設周辺の生活環境の整備等に関する法律」第8条に基づく補助金を活用し、整備します。

小檜山吉紀三沢市長は、「本施設は、経済性や効率性を考慮し、建設費の削減を図るため一定程度の汚泥を除去後に下水道施設へ放流する方式を採用しており、今後においても、市民生活に欠かすことのできないし尿処理体制を安定的かつ持続的に行うため、健全な運営に努めてまいる所存である」と挨拶しました。

総事業費は約29億円であり、そのうち防衛省の補助金を約15億円充て、令和8年度の完成を目指しています。



挨拶をする小檜山三沢市長



(仮称)し尿処理施設の完成予想図

令和6年度在日米軍従業員永年勤続者表彰

10月25日、三沢基地において、令和6年度在日米軍従業員永年勤続者表彰式を開催しました。

防衛省は、在日米軍との共催により、長年にわたり在日米軍施設に勤務した在日米軍従業員の功績をたたえるために永年勤続者の表彰を行っています。今年度は、勤続10年、20年、30年及び40年を迎えた東北防衛局管内に所在する在日米軍施設に勤務する計71名を表彰しました。



表彰式の様子

防衛省の建設工事に関する説明会

東北防衛局は、福島県(10月29日)、山形県(11月8日)において、防衛省の建設工事に関する説明会を実施しました。

説明会では、自衛隊施設の強靱化に向けた取り組みとして、自衛隊施設の最適化事業(注)や地元企業の参画について、説明を行いました。また、今年度の発注予定工事や令和7年度予算概算要求、建設物価上昇などへの取り組み、入札・契約制度について、説明を行い、積極的な入札への参加を呼びかけました。



福島県での説明会

【注】自衛隊施設の最適化事業: 全ての駐屯地・基地等全体の最適化(①強靱化、②安定的運用、③コスト削減、④社会・環境への対応)を図るために実施する事業

安全運転講習会

東北防衛局は、公共交通機関のほか、現場までの移動に公用車を利用する機会が多くあり、車両の適正かつ安全な運行のため、職員を対象とした安全運転講習会を開催しました。

10月17日に開催した講習会では、仙台東警察署から講師をお招きし、安全運転、交通事故防止、飲酒運転防止の講話のほか、運転経験の浅い若手職員を対象に、運転前の点検とドライビングポジションの解説を実施しました。

また、11月1日から12月20日までの間、運転経験の浅い若手職員を対象に、自動車教習所における実技講習を行いました。講習では、シミュレータによる吹雪の中の市街地走行等の体験や実車での安全運転研修を行いました。



シミュレータによる雪道走行体験

安全衛生教育

11月21日、東北防衛局は、職員が安全に業務に取り組める環境の整備と、公務・通勤における災害を未然に防止するため、宮城労働局から講師を迎え、安全衛生教育を実施しました。

教育では、労働災害の発生状況の傾向や事例のほか、多くの労働災害の原因となっているヒューマンエラー（うっかり、ぼんやり）やリスクテイキング（手抜き、思い込み）による不安全な行動の防止などについて説明を受けるとともに、転倒予防・腰痛予防対策について紹介されました。



教育の様子

教育については、午前午後の2回実施するほか、オンラインでも実施し、全職員の8割以上が参加しました。

～在日米軍基地で働きませんか～

エルモでは、在日米軍基地で勤務する従業員の募集を行っています。

興味のある方は、エルモホームページをご覧ください。下記の支部にお問い合わせください。

求人情報提供メールサービスに登録すると、希望する求人情報がホームページに掲載される都度、お知らせメールが送信されますので御利用下さい。

【X(旧Twitter)】

求人情報等の募集関連情報を定期的に発信しています。
ぜひ、フォローをお願いします。

アカウント名

「在日米軍従業員求人情報(エルモ)@LMO_recruit」



エルモホーム
ページ



求人情報
本州・九州の基地



【窓口応募受付・お問い合わせ先】 エルモ三沢支部 管理課管理係
電話：0176-53-4165 住所：青森県三沢市平畑1-1-25
(担当施設：三沢飛行場、八戸貯油施設、車力通信所)

LMO

検索

<https://www.lmo.go.jp>

防衛省・自衛隊の様々な活動は、地域の理解と協力があっではじめて可能となるものであり、地域との信頼をより一層深めていく必要があると考えています。

青森県三沢市 ～三沢市のお祭りを紹介

三沢市では年間10以上のお祭りやイベントが行われています。その中には、米軍や自衛隊に積極的に参加・協力、または主催していただいているものがあり、それらについて、また、三沢市のバーベキュー事情について、ご紹介させていただきます。

6月には、アメリカンデーが、基地正門前や公会堂などにて、アメリカの文化・スポーツを知る目的で行われます。基地正門前には、米軍の出店が数多く並び、たくさんの方が集まります。今では航空祭に次ぐ人出となっています。

8月下旬には、三沢まつりが3日間行われ、初日と最終日には山車が市内を練り歩きます。中日には仮装行列や流し踊り神輿担ぎがあり、神輿には自衛隊の方々が毎年参加してくださっています。

9月になると、航空自衛隊主催の航空祭が開催されます。全国各地の航空ファンが集い、この日は三沢で一番の賑わいとなっております。

このほか、毎月1回米軍全面協力のもと、フレンドシップツアーが行われています。米軍のバスに乗車し、基地内を案内してもらいます。

また、三沢市ではバーベキューが盛んです。特にGWの頃になると中央公園の桜がライトアップされ、東屋(防衛省の交付金で整備されました。)で、市民がバーベキューを楽しんでいます。市内の肉屋さんで肉を買々と、店にもよりますが、バーベキューセット(焼台・炭・網・トングなど)を配達・回収してもらうこともできるので、手軽に楽しめます。

三沢ならではの、いろいろなお祭りやイベントが数多くありますので、どうぞお越しください。



6月のアメリカンデー



8月下旬の三沢まつり



9月の航空祭

東北のかなめでは、「地域と防衛との共生」をテーマに、関連する組織の地域や防衛とのかかわりなどを紹介する連載をはじめました。

三沢米空軍 ～三沢基地航空祭2024

三沢基地は、9月8日、三沢基地航空祭2024を開催しました。米日の長きにわたる協力関係を象徴する、この貴重な行事に4万人以上が来場しました。本航空祭は、軍関係者、周辺地域、また遠方から来場した皆様が、空と文化に対する共通の情熱を介し、互いに通じ合うための特別な機会を提供しました。

航空祭当日、高度な機動力で大きな歓声を浴びた、航空自衛隊のF-35AライトニングIIによる息を飲むようなパフォーマンスなど、華麗な飛行展示により、盛り上がりは最高潮に達しました。また、米空軍第35戦闘航空団のF-16ファイティングファルコンも激しく、力強い能力を披露し、米日両国の絆をさらに際立たせました。

また、来場者は空自の三菱F-2から米海軍のP-8ポセイドンまで、多彩な地上展示の見学を楽しんでいました。さらに、体験型展示、異文化交流、アメリカや日本の食べ物を販売するブースもあり、隊員や地域の皆様との間に、深い絆が育まれました。



三沢基地航空祭2024は、エンターテイメントとしてだけでなく、三沢基地と周辺地域の相互理解及び信頼を深める役割も果たしました。基地では、この一般公開を通じて、地元地域のパートナーとして、また、隣人としてどうあるべきかを確かめるとともに、来場者に忘れ難い思い出を提供し、来年の開催への期待を高めました。

本航空祭はまさに、団結と協力の精神を体現するものでした。

陸上自衛隊東北方面隊 ～方面隊災害対処訓練「みちのくALERT2024」



みちのくALERT2024
ロゴマーク

みちのくALERT(アラート)は、「自治体、関係機関及び自衛隊が連携し、東北地区の災害対応能力の向上を図る」ことを目的とし、東北方面隊が主催する災害対処訓練です。

平成14年(2002年)に自治体、関係機関を招致し、図上訓練を実施したのが始まりです。平成20年(2008年)に実動訓練「みちのくALERT2008」を実施し、以降、4年に1回をサイクルとして実動訓練を計画していましたが東日本大震災等の影響により実動訓練は平成26年「みちのくALERT2014」、平成30年「みちのくALERT2018」の実施となりました。

その後も新型コロナウイルスの影響を受け、大規模実動演習は、今年度(令和6年度)「みちのくALERT2024」として6年ぶりの実施となりました。

「みちのくALERT2024」については、「1人でも多くの命を救うために」をキーメッセージとして、「繋がる」をキーワードに「組織と組織が繋がる」「計画と行動が繋がる」「過去から未来へ繋がる」の3つをコンセプトとし、令和6年11月15日(金)から11月24日(日)の間、東北地区全域において「日本海溝型地震及び大雨災害」の想定で、東北方面隊各部隊、海空自衛隊のほか71自治体及び53関係機関(展示や研修を含めると62関係機関)の参加により実施しました。

特に、11月16日(土)及び17日(日)、石巻市(渡波海岸)において「孤立地域における災害応急活動」総合訓練を実施し、自衛隊及び関係機関ヘリコプターによる人命救助(ホイスト)、海上自衛隊LCAC(エアクッション艇)による揚陸訓練(人命救助に係る装備品、車両の輸送)、孤立地域への進出(道路啓開、橋梁架設)などを含めて実施し、自衛隊と各機関の連携を深化させることができました。



陸自ヘリによる人命救助(ホイスト)



海上自衛隊LCAC(エアクッション艇)による揚陸訓練



陸自重機による道路啓開

防衛省 ～三沢飛行場における米軍戦闘機に係る態勢の更新

米国は、戦後最も厳しく複雑な安全保障環境に直面し、周辺国の軍事活動が活発化する中、在日米軍のプレゼンスを維持・強化し、日米同盟の抑止力・対処力を更に強化するため、米空軍は三沢飛行場及び嘉手納飛行場に、米海兵隊は岩国飛行場に配備している戦闘機について、今後数年かけて戦闘機に係る態勢を更新することを昨年7月公表しました。

東北防衛局は、三沢飛行場に関し、直ちに、次の情報を三沢市をはじめとする地元自治体に提供をしました。

- ・ F-16戦闘機36機を、今後数年をかけて、F-35A戦闘機48機に更新する
- ・ 航空部隊の任務や平素の活動に変更はない
- ・ 運用中の機体をF-35Aに更新するものであり、新たに部隊が新編されるものではない
- ・ 引き続きパイロットにしっかりと教育を行い、地元配慮して運用していく

三沢飛行場＜空軍＞

12機増

第35航空団

F-16 36機 → F-35A 48機



さらに、昨年11月には、

- ・ 令和7年夏に、三沢飛行場からF-16戦闘機の段階的な減勢を開始する
- ・ 令和8年春に、1機目のF-35Aを三沢飛行場に配備する

などの追加情報について、地元自治体に情報提供をしました。

防衛省は、三沢飛行場など米軍基地における機種更新により、戦闘機の性能が向上し、全体として任務遂行能力が強化されることとなり、また、いわゆる第5世代戦闘機を中心とした航空自衛隊の態勢強化とあいまって、相互運用性が向上することが期待され、日米同盟の抑止力・対処力はさらに強化されるものと考えています。

防衛省としては、引き続き、三沢飛行場周辺の騒音状況の把握に努めるとともに、米側に対して、飛行運用に係る安全確保や、地元への配慮について求めてまいります。

株式会社中屋敷建設 ～三沢(4)格納庫改修建築その他工事

当社は、青森県三沢市において昭和43年(1968年)に創立し、令和5年に創業55周年を迎えました。建築一式工事、土木一式工事をはじめ、地域の下水汚泥を肥料化するリサイクル事業も展開しております。



中屋敷建設

昨年7月、東北防衛局様から令和4年度事業で受注しました「三沢(4)格納庫改修建築その他工事」において、令和6年度優秀工事顕彰をいただきました。

本事業は、工事場所が滑走路付近であるため、区画外への資材や粉塵などの飛散物防止、仮設物の転倒・倒壊防止など、通常工事にも増して安全対策や気象情報に細心の注意を払いました。

また、工事によって航空自衛隊の皆様への活動に影響が及ばぬよう、施工管理、工程管理等、現地部隊の方々と綿密な連絡・調整を行い、高品質な工事目的物の完成に向け、工事の円滑な施工に努めました。



航空自衛隊三沢基地 格納庫 外観



航空自衛隊三沢基地 格納庫 内観

日本を取り巻く安全保障環境が一層厳しさを増す中、北部防空の要として活動される航空自衛隊と在日米軍が共同使用する三沢基地の果たす役割は益々重要になると考えます。

「建設業を通じて地域社会の繁栄に貢献する」との経営理念のもと、今後も地元の一企業として基地機能の維持に貢献するべく経験を重ね、より良い品質の製品が提供できるよう努めますとともに、「三沢基地航空祭」などの行事を通じ、地域の皆様と共に自衛隊の活動に理解を深め、交流促進事業に協力を続けてまいります。

編集後記

このたび、広報紙「東北のかなめ」をリニューアルしました。

リニューアルにあたっては、「東北6県において、地域と防衛との共生を促進する」ことを広報紙の目的とし、構成を見直しました。今後、地域と防衛との共生の促進を目指し、東北防衛局の活動や地方自治体など関係する皆さまからのご寄稿を発信してまいりますので、引き続きご愛読よろしくお願いいたします。

